



愛の手を

パフテスト心身障害児(者)を守る会

第173号

発行責任者
 社会福祉法人 パフテスト心身
 障害児(者)を守る会
 重症心身障害児施設 久山療
 育園重症児者医療療育センター
 理事長 山田 雄 次
 編集責任者 馬 原 哲 治
 福岡県粕屋郡久山町大字
 久原 1869
 ☎代 (092)976-2281
 FAX (092)976-2172

久山療育園の新しい事業への伴走を願って

□□ニ一友の会ボランティア委員/理事 甲斐 悦江

久山療育園では、今「在宅支援棟」と「共同生活介護棟ケアホームひさやま」の建設に向けて準備が進められています。日頃、通所サービスを受けておられる方たちの食事介助をしたり、三時間位、側で一緒に過ごしているボランティアの一人ですが、この新しい事業の展開に期待しています。

通所しておられる重症児者の殆どが食事、排泄その他の全介助が必要な方たちです。最近は医療度の高い方が増えて、こんな処置も家族の方がしているらっしゃるのかと驚くほどです。

通所にいる間は看護師さんからマンツーマンの看護を受けておられますが、家庭での訪問看護も充分に受けれない中では日常の看取りの大変さが想像されます。それに、ご家庭の高齢化の問題もあります。

私の体の続く限り家で一緒に暮らしたいけど、もう、一人で抱えるのが大変になって、私が倒れたらどうなるだろうか――

一生、一人立ちできないから、先のことと心配――
 この子の終の棲家がほしい――
 お子さんの命を懸命に守り、強く、やさしい笑顔のお母さんたちの不安。そして出会う方たちの背後にも同じ日々を過ごしていられたい方たちが多いのです。最近の福岡県の調査では、現在重症障害児者の内65パーセント位が在宅で、その数は増えるだろうと報告しています。

久山療育園がこのような現状を緊

急の課題として受け止め、重症児者のニーズに応えていく事業に共に繋がる輪が広がるよう願っています。

この新しい事業については「愛の手を」の前号(172号)に詳しく書かれていますように、厳しい運営努力と赤字補填の手立てが必要とされています。

すでにこのための建築募金が始まられ、□□ニ一友の会も具体的な募金計画がたてられています。

十月には、北海道かばちやと馬鈴薯の販売が多くの方々の協力を得て完売しました。

続いて十一月三十日は、ボランティア主催の「久山デー」を平尾教会の大名クロスガーデンで開催。久山の利用者さんが園外活動で喜んでおられるその場所、近隣の教会や街歩きの人たちにも呼びかけて、利用者さんと一緒に素敵な音楽とふれあいを楽しんでもらおう！手作りの食事や物品バザーの売上を募金協力に！とみんなでわくわくしながら企画したものでした。

□□ニ一友の会は、今、久山療育園創立の原点に立ち返って、経済的に物心両面から支えて下さる会員のお誘いをしていきます。久山療育園と歩みを共にし、共に生きる社会を求めていきましよう。よろしくお願い致します。

体のうちでより弱いと思われる肢体の存在することがかけがえのないことである。

(コリント1.12-22)

主張

久山療育園の初心と『ケアーホームひさやま』開設の取り組み

理事長 山田 雄次

本日久山療育園重症児者医療療育センター(以下久山療育園)の第37回開園祭にこのようにたくさんのかたがたを迎えて行うことが出来たことを大変うれしく思っています。開園以来皆様からのお祈りとご支援によって久山療育園の働きが支えられていますことを心よりお礼申し上げます。この開園祭を機に皆様とのつながりを一層深めさせて頂きたいと願っています。

■聖書のみことばから■

聖書の人イザヤは激動、危機、不安の中にあつた8C後半の南ユダで活躍した預言者でした。BC734年北王国イスラエルとシリヤの連合軍によって南ユダの都エルサレムが包囲された時「王の心と民の心とは風に動かされる木のよう(イザヤ7:2)に動揺」した。その時イザヤは立って、アハズ王に「氣をつけて静かにし、恐れてはならない」と主のことばを告げます(7:4)。王国の危機を救うのは大国の武力や政治力や経済力ではない。静かにし、敵を恐れず主を信頼して立つことが大切だと語りま

す。それから30年後エルサレムが強国アッシリヤによって攻められ、同じような危機に立たされるのです。が、あわてふためいて隣国エジプトの助けを求めようとするヒゼキヤ王に対して同じこと、「あなたがたは立ち帰って、落ちついていながら救われ、穏やかにしているならば力を得る(イザヤ30:15)と神により頼んで道を選ぶべきことを語りました。注目すべきは30年前と変わらない預言者としての初心が貫かれているということです。

このことを私たちのことに置き変えて言う時代の流れと状況がどのように変わっても主と支援者の祈りと支えを信じ、大切な初心に立って変わらないことばを語り、変わらない働きを一貫して取り組んで行くということが大切だということだと思ひます。

少子高齢化という医療・福祉を支える社会構造の変化や倫理の欠落が危惧される経済優先の国の流れにおいて、医療・福祉の先行きの厳しさが予想される中で私たちの初心は何であつたかということを感じ起し、37年の歩みを振りかえり、その中で私たちが担うべき重症児者への医療・福祉の課題を選びとつてゆかなければなりません。そのことが今私たちに問われ、期待されているのだと思ひます。

■久山療育園の初心■

久山療育園は「見えるものではなく、見えないものに目を注ぎ」(コリント人への第2の手紙4:18)、重症児者と共に生きる福祉社会(きょうどうたい)の実現を目指し、1975年に社会福祉法人を設立し、1976年の秋開園致しました。以来37年間ははじめの祈りである「重症児者が社会の真ん中に位置づけられる新しい福祉社会づくりの拠点となる」設立の目的の実現を目指し入所者の医療療育の充実と向上に専心して取り組みつつ1990年に始まった全国初の通園モデル事業の取り組みをはじめとしさまざまな在宅支援サービスに取り組

み地域に開かれた施設としてその働きを拡げて来ました。2008年に全面改築工事を成しそれを機に名称を「久山療育園重症児者医療療育センター」と改称したのも設立の目的達成に向けた強い願いと決意を表してのことでした。新しい施設の完成後は皆様ご存知の通り在宅支援プロジェクト中期5ヶ年計画の第1次の計画事業としてNICU(新生児救急治療室)の後方支援を祈りに覚えて7床の増床とその受け入れのための増築工事を完成させ、今第2次の在宅支援プロジェクトとして「在宅支援棟」と「ケアーホームひさやま」を2015年度からのオープンを目ざし取り組みを進めています。

なり、「ケアーホームひさやま」は医療病床の増床が難しいなか障害の重度化や親の高令化などの理由で厳しい状況におかれている在宅重症児者の「受け皿」として在宅支援の拡充とその強化を目指すもので通所事業を利用しておられる在宅の保護者から強い期待が寄せられています。

私たちの法人設立趣意書には「……重荷を負った両親の労苦に連帯し、共に生きることを願って社会福祉法人を設立し、その第1の事業としての久山療育園を建設することを決意した……」とあります。将来に深刻な不安を抱え、重荷を負った在宅の両親(保護者)に連帯するという意味で、特に在宅重症児者の「受け皿」となる「ケアーホームひさやま」の開設は久山療育園運動の原点・初心につながる事業として積極的に担ってゆくべき課題であると認識しています。

■支援者との協働による課題の実現■

さて今取り組みを進めている在宅支援プロジェクトは重症児者福祉を拡充する夢のある働きですがこれは久山療育園だけの働きではなく広く皆様からの協力なしには成し得ない事業です。それでこの開園祭の場でお願ひさせて頂きたいと思うのですが2つの願ひがあります。一つは「ケアーホームひさやま」の厳しい運営に対する支援です。重症児者は障害が重く一般のケ

アーホームより人的配置を厚くしてゆかなければならず、重症児者に適用する場合運営が厳しく、試算によれば年間1200万円程度の赤字の発生が予想されます。そのための運営支援をお願いしたいということです。更にその支援を補完的に継続してゆくのでなく一方で重症児者に対する在宅支援として「ケアーホーム」の活用が出来るよう行政を動かし施策の整備、改善を求めてゆく運動を共に起していって頂きたいということです。

お願いの2つ目は建築のため3年間で3000万円の募金協力をお願いをしたいということです。建築資金の調達に関しては大方の部分は将来事業計画の積立金から充当されますが、この在宅支援プロジェクトが在宅重症児者の福祉の拡充のために重要な意味をもっていることを皆様に周知して頂くための啓蒙的な働きの意味も込め特別に建築募金を行うことに致しました。本日の開園祭の時に合わせて『在宅支援棟』と「ケアーホームひさやま」の建築募金趣意書を作成し、皆様のお手許に配らせて頂きました。久山療育園設立の母体であるバプテストコロンニアの会と市民の皆様、更に入所・通所すべての保護者の方々と一体となつての協働により課題の実現を果たしたいと切に願っているところです。

(第37回開園祭式辞より)

「在宅支援の現状と課題」

—全国日中活動支援協議会から

センター長 宮崎信義

はじめに

在宅支援の三本柱は、通所事業・短期入所・訪問事業と言われ、この制度や実施施設が充実していなければ重度化・高齢化している在宅の重症心身障害児者やご家族の存在は危機に瀕することになり、既にその徴候が見え始めています。

「家庭で家族と共に」という切なる願いがあっても、現実には在宅介護が限界となり、施設入所待機者が3,000人から5,000人に

及んでいます。今後はこの数が更に増加すると予測されています。

このような在宅支援の現状と課題を協議するため、第17回全国重症心身障害日中活動支援協議会は、2013年(平成25年)10月10～11日に仙台市で開催されました。協議会の内容から今号の「在宅支援の現状と課題」について述べたいと思います。

第17回日中活動支援協議会

全国重症心身障害日中活動支援協議会は、2011年度までの全国重症心身障害児者通園協議会が法制度の変化に伴い名称変更されたものです。これまで重症児者通園(A型・B型)といわれ児者一貫

で取り組まれていた事業が、児童福祉法(児童発達支援事業など)と障害者総合支援法(生活介護事業)

に分けられ、事業所も多くは併設(多機能型)ですが中には児童だけや成人だけの事業所も含まれています。新会員施設は214施設(定員10人以上)91、10人未満123施設)で、会員の動向は新規が34ヶ所、退会が23ヶ所と運営の困難性を反映しています。

「行政説明」から

行政説明は、「障害保健福祉施策の動向」と題して厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室の川島均室長補佐によってなされました。

概要は、1. 障害福祉施策のこれまでの経緯について。①障害福祉サービス利用概況(国保連、平成25年4月)・・・利用者は約66・5万人で生活介護248、893人、短期入所34、411人、重度訪問介護9、307人などです。②障害児支援の利用状況(国保連、平成25年4月)・・・利用者は約11・5万人、児童発達支援47、997人、放課後等デイサービス60、503人等となっています。

II. 「つなぎ法」と障害者自立支援法の改正—平成25年4月の利用者負担額。自己負担の軽減措置により、①成人は低所得(非課税)・生活保護は負担なしで利用(93・4%)。②児童は低所得(非課税)の負担額0円(13・8%)、生活保護負担額0円(2・5%)。

III. 障害者総合支援法について。1. 障害支援区分の見直し(平成26年4月施行)。①「障害支援区分」への名称変更は、「障害の程度(重度)ではなく、標準的な支援の必要の度合いを示す区分の名称へと配慮した。②知的障害・精神障害の特徴の反映・・・一次判定では低く判定される傾向があり、区分の制定に当たった適切な配慮を行った。③今後の給付・・・社会的状況(介護者・居住の状況等)を考慮すべきという指摘から、法律の施行後3年を目途(2016年度まで)として支給決定の在り方について検討し所要の措置を講ずる。※障害支援区分への見直し案の要点として、①新型判定式の構築・・・コンピュータ判定を現行の二次判定に近くなるように抜本改定。②認定調査項目の見直し(106項目↓80項目)。③追加項目(6)知的障害と精神障害の特性をより反映する。④評価方法の見直し・・・より頻回な状況から「できない状況」に。

2. 重度訪問介護の対象拡大(平成26年4月施行)。厚生労働省令において、現行の肢体不自由者(区分4以上)に加え、重度の知的障害者・精神障害者(区分3以上)に対象拡大する予定。

3. 共同生活介護(ケアホーム)の協働生活援助(グループホーム)への一元化。外部サービス利用規制の見直し・・・外部の居宅介護事業者と連携すること等により利用者の状態に応じた柔軟なサービス提供を行うことを検討。

在宅支援の現状と課題
「重症心身障害日中活動支援のこれまで、そしてこれから」という題でシンポジウムがもたれました。在宅支援の主要な柱である日中活動支援事業(これまでの通園事業)の現状について協議し向上を目指すしていくことで発表と討論が行われました。以下にアンケート調査報告を中心に内容をお知らせ致します。

1. 平成25年度全国日中活動支援事業所アンケート調査報告。
1. 法制化に伴う収支の変化——利用者数の実績に応じた報酬となり収支が不安定となったが、特に定員15～24人は赤字が多い傾向だった。

2. 新体制となって生じてきた問題——①医療体制・・・看護師の不足②障害程度区分が同じなら医療的ケアが重くても報酬は同額である。3. 以前から存在した問題点——①送迎では医療体制や家族の高齢化による自家送迎が困難になっている。

る。医療度が高い利用者では2人添乗体制が必要。②高齢化に伴い、通所よりも短期入所やケアホーム利用希望が増加している。また訪問看護や訪問介護システムの充実に對する希望が増加している。

4. キャリーオーバー(年齢超過)児者の医療について。

II. 地域生活の拠点としての重症児者日中活動支援事業の整備・拡充の課題。

1. 当面の課題として、①法制度・・・「障害者総合支援法」と「障害支援区分。②「国連障害者権利条約」の批准。③「全国日中活動支援協議会」の組織強化と他団体との連携。

2. 10年後の予測として、病床数の大幅な削減(19,000床↓10,000床)、在宅重症児者の増加(30,000→30,000人)が挙げられました。

おわりに

43,000人とも言われる重症心身障害児者のうち在宅児者は約28,000人と推測されていますが、在宅を支える事業や社会資源の整備拡充が望まれています。また在宅児者では重症児者の高齢化・重度化や保護者の高齢化が顕著になり、在宅介護が不可能になった場合の受皿や「医療難民」を出さない切実な課題があります。これからの事業者と全国重症心身障害児(者)を守る会や行政とも連携していくことを切に望んでいます。

「第3回全国支援者会議が開催されました」

センター長 宮崎 信義（編集）

久山療育園では法人定款の変更前までは、35名前後の評議員が毎年参会され、久山療育園の理念の再検討や福祉社会づくりの拠点として、福祉共同体としての園の働きについて貴重な提言を頂いてきました。その後、社会福祉法人監査に従って、評議員会が法人運営を担う理事会の働きを検証する機関として改組されました。そこで創立理念を再確認し、その後の久山運動を導く働きを担う組織として「全国支援者会議」が組織されました。今年は4年ぶりに開園祭の翌日、2013年9月24日に36名の参加を得て第3回全国支援者会議が開催されました。そこでこれまでの全国支援者会議の歴史と課題とを踏まえつつ、発題・協議・提言された内容について御報告致します。

①第1回全国支援者会議：2008年9月22日に開催され、42名が出席されました。8月の施設全面改築竣工式・定礎式を終えました。この時期は障害者自立支援法の公布後の施設としての制度的な対応を検討し、創立理念に基づいた行くべき道を確立する時でした。発題は、I.「創立理念」設立の目的から今後の久山療育園重症児者医療療育センターの新しい課題について考える（川野直人理事長）、II.「障害者医療福祉の行方とこれからの久山療育園」〜共生と自立の意味（宮崎信義）

センター長によってなされ熱い協議がなされました。

②第2回全国支援者会議：「在宅支援プロジェクト5ヶ年計画」が策定された2009年の10月20日に開催され29名が参加されました。発題・提言の内容は、A.創立理念の検証と再確認、B.運動の継承・後継者育成、C.久山療育園の将来計画・ビジョンの3部構成でなされ協議されました。

③第3回全国支援者会議：2013年9月24日に36名が参加を得て開催されました。踊一郎牧師（理事）が議長を務めてくださり、熱い討議が交わされました。

第3回全国支援者会議協議―「40年の歩みの反芻とポスト40年の展望」

発題Ⅰ：「40年の歩みの反芻とポスト40年の展望」―重症児者医療福祉の施策の流れを踏まえて

川野直人名誉理事長

申命記8章25の引用から。

1. 最近の障害者福祉の状況から、障害者、重症心身障害者に向けて地域での自立が、行政関係でよく強調されています。しかし自立可能な障害者と不可能な重症児者の場合は一律にはいかならないことは明白です。東京都大阪府等では在宅施策を広げる為の訪問看護等の在宅支援センターの増設が見られています。更に気になることとしてケアホーム

とグループホームの一体化が進められつつあることです。

2. 地域福祉対策：新法では「重症心身障害施設」も18歳という年齢で重症児医療と重症者療養介護に分化されました。障害者政策委員会で識者から、重症児者を生涯施設に押し込めておくのは人権侵害という意見が出て、重症児施設の解体が進められようとしています。また国立病院の重症児者医療からの撤退等、重症児者通園事業も対応困難な状態がやがて始まると予測されます。

3. 久山療育園重症児者医療療育センターの場合：久山療育園の場合には、その先取りとして重症児者ケアホーム建設企画が進行中ですが、早晩需要は満杯となり、地域福祉の課題は社会的に在宅支援センターの必要性が招来すると予測されます。園自体の取り組みでは、在来の入所児者と通園事業の医療療育優先の立場から地域対策には限界があり、それらの活動の広がり、センターの関わりが如何に対応できるかという課題もあります。

4. 新しい課題への視点：久山療育園は運動面ではコロニー友の会運動と一体的に始まったのですが、友の会は事業体と同一機関ではなく、支援団体であり、過去にセンターが手を出せなかった在宅支援ボランティアの働き、地域リハビリ支援、個人的な医療機関への送迎等多くの支援実績があります。今後も市民運動の核としての存在感が益々大きく期待されるものと思っています。

【質疑応答】

Q1（安藤榮雄）：「重症児者」という名称がなくなる恐れや「施設解体」

の危機などについてお尋ねしたい。

A（川野直人）：18歳で施設やその役割を分割しようとする児者分離の考え方があり、これは重症心身障害児者施設の解体に繋がる危険があります。Q2（安藤榮雄）：「重症児者を社会の中心に」という願いが崩れ始めているということですか。A（川野直人）：重症児者の存在そのものがあいまいとされ、久山療育園では在宅の重症児者の受皿としてケアホームが計画されている。これは「重症児者に対応するケアホーム」のテストケースとなる役割を担っています。Q3（麦野 賦）：家族支援については教会と連携する可能性については、A（川野直人）：地域支援事業の一環として教会幼稚園の園舎を活用した集いやりハビリがありました。

第3回全国支援者会議協議―運営と将来計画

発題Ⅱ：「久山療育園重症児者医療療育センターの運営と将来計画」

宮崎信義センター長

1. 創立理念に支えられた重症児者援助（医療・療育・福祉）の向上

2. 「重症心身障害施設」としてのアイデンティティーの継続

①児者分離の問題性：「久山療育園は病院であり、学校であり、家庭である。」児者一貫体制の堅持。

②新体系への移行と「重症心身障害施設」の継続性：「医療型障害児入所施設」「療養介護事業所」及び「児童発達支援事業」「生活介護事業」を担いつつ、「重症心身障害施設」で有り続ける。

3. 「療育」を堅持していくために：「療育」の継続。②「療育病院」としての役割と使命。「チーム医療」から「チーム療育」へ。

4. 「在宅支援構想」：新たな傾斜配置へ。「在宅支援プロジェクト」第2段階。

①「在宅支援プロジェクト」第二次基本計画の概要。

②「ケアホーム」「ひさやま」（定員10人）：重症児者に対応した新たな受皿作り。

5. 「病棟傾斜配置」と「ケアホーム・ひさやま」（福祉型）の医療支援「障がい者総合支援法」「児童福祉法」制度に準拠した2施設体制への移行に向けて。

6. 重症心身障害施設の将来予測

【質疑応答】

Q1（安藤榮二）：人材育成や職員の年齢構成、重症児者施設のアイデンティティー、在宅の事業特に地域の施設への派遣や協力についての考え方を伺いたい。A（宮崎信義）：職員の年齢構成については継承性を考慮した配分をしたいと考えているが、知識や技術そして後進の指導という点で中堅職員の働きは大きい。また若年の職員の職業意識が世相も含めて変質してきておりたゆまざる育成に努めなければなりません。また重症児者施設の職員としての自覚を促し、入園児者だけでなく在宅や地域のニーズに応じていく意識が必要で、これから重症児者医療療育センターとしては、地域の保育園や福祉施設への協力も欠かせません。A（志満秀武）：久山療育園の将来計画は「在宅支援プロジェクト」で在宅支援棟とケアホームの建設途上にあるが経営上の困難がある。し

かし働きかけることで県当局の動きが始まった。これからも行政とのかわりを継続する必要がある。

提言1.「久山療育園の働きと使命―重症児者看護の視点から」

曾根崎加代子看護部長

①久山療育園の現状…利用者の平均年齢は40才を過ぎ、最高年齢者は70才を超え、加齢とともに様々な病状がみられるようになってきた。在宅支援としての短期入所者数は2012年度延べ1860名、その40%近くが超重症児者であった。

②施設の役割…医療的ケアだけでなく生活支援、発達視点を持ち、家族をも含めた支援も求められる。

③今後の対応…(1)看護師確保、(2)教育の充実、「九州地区重症心身障害福祉協会認定・看護師研修会」を開始した。

提言2.「久山療育園の働きと使命―福祉と生活支援の視点から」

工藤克義療育指導室長

①久山療育園は37年前の1976年(昭和51)9月に全国で40番目に誕生した。・運動会、ピクニック、海水浴等が全員参加で行なわれた。

②1981年(昭和56)に国際障害年があった。1993年(平成5年)から小グループによる園外活動開始された。

③2005年(平成17年)7月から食事体制の変更(4回食を3回食に)。

④2006年(平成18年)10月から障害者自立支援法が施行。サービス管理責任者の選任と入所者一人ひとりに個別支援計画を策定。

⑤1990年(平成2年)1月から重症児者の通園事業(モデル事業)

開始。

⑥緊急一時保護利用者も1988年(昭和63)は件数が19件利用日数は185日と件数が二桁利用日数が三桁となり増加が始まった。

2011年度(平成23)は件数は583件で利用日数は1931日である。

⑦1997年(平成9年)10月から地域療育支援事業を開始し、当園でも2名の相談支援専門員が配置。

提言3.「久山療育園の働きと使命―事業運営(財政)の視点から」

馬原哲治事務部長

①資料分析「久山療育園の事業の現状分析と今後の運営課題・重点」

②提言「利用者・働き人共にライフステージに向かい合いキャリアが存続する職場として立つ」

③意識の変化が働きの変化をもたらす「生活棟研修での感動」どうしたら持続できるのか?。

④使命と久山の働きの存続を目指す。

第3回全国支援者会議協議―コロナ友の会運動

発題Ⅲ.「コロナ友の会・親の会との連携による課題の社会化をめざす運動の展開」

山田雄次理事長

1.危機的状況に対する対応…危機的状況に対する対応の基本は、事業運営に対する積極的な自己努力を行うとともに久山療育園への支援者との連携を密にすることによる基盤の強化が必要です。教会(コロナ友の会)は「久山療育園のこれ迄の歩みにおいて常に希望と力の源泉」となってきたからです。

2.課題の社会化…①バプテスト教会との関係(連携)。②コロナ友の会との関係(連携)。

3.具体的な取り組み…①久山療育園(医療福祉の現場)、教会・コロナ友の会・市民(地域)・保護者(当事者)、その他が重症児者医療福祉にかかわるそれぞれの立場から課題を提起すると共に、連携して運動を起こし行政・社会の働きかけ、これを動かし課題の社会化を果たしてゆく。連絡協議機関(連絡協議会)の創設。②重症児者と共に生きる福祉社会づくりに関する理念の周知と人材育成のための教育の場としての施設の開放。

4.まとめ…久山療育園の37年、コロナ友の会の45年の歩み。行政、事業体、支援組織(者)、ボランティア、保護者が相互に連携・協働してゆかないと重症児者の医療・療育は成り立たない。

【質疑応答】

Q1(松坂克世)「社会福祉力」と「地域力」は同じような意味で用いていますか。A(山田雄次)その意味で使っています。

提言4.「人材育成の課題―コロナ友の会活動をベースとして」

松藤一作理事

1.はじめに―運動における3つのベクトル…①広がり、②深まり、③継続。

2.コロナ友の会運動における「広がり」「深まり」「継続」…①ワークキャンプ。②公開学習会。

3.久山ワークキャンプの運動的位置付けについて、あなたも隣人になつてみませんか?

4.「広がり」の観点から…①《お持

ち帰りのお土産》の明確さと、その更なる広がり―言葉化と、教会でのシェア。②「深まり」の観点から―利用者との出会いを越えて、そのバックグラウンドにある家族との出会い。この出会いが、「自分の事柄」「教会の事柄」となっていくフォロウの必要性。③「継続」の観点から―山田先生の個性が前面にあつて、継続されてきた。人材不足が課題。

5.教会が主体となる運動へ…①教会の祈りを「運動体」から「事業体」へ。②教会の現場へ。重症児者の課題を福岡市東地区の課題にしない。久山から「教会の神学」を生み出していく必要性と可能性。

第3回全国支援者会議の全体協議

(叶 義文)「在宅支援プロジェクト」では利用者の生活がどう変わっていくのが大切だと思う。

(宮崎信義)ケアホームの運営について先行された大牟田恵愛園の意見を聞いていきたい。

(土生邦彦)プログラムの7ページにある方向性で検討しています。建て上げや運営については是非、大牟田恵愛園に学びたい。

(平良憲誠)「ケアホーム」の経常収支が年間1、200万円の赤字と予測されているが、教会からわざわざでも支援していきたい。

(志満秀武)今後行政にも働き掛けていくことが大切だと思う。今までも働きかけが行政を動かした一因だと思う。また保護者にも働き掛け、保護者の運動が起こることに期待したい。

(井上清美)在宅で介護している

保護者の立場として、親亡き後に兄弟姉妹に責任を負わすことは忍びない。是非、在宅支援の働きを実現して頂きたい。また預けない保護者も協力を惜しまない。

(金丸 真)教会と久山療育園との連携が大切だと思う。教会がただバックアップするのではなく、なぜ赤字であっても久山療育園が実践したいのかを共有していきたい。

(平良憲誠)久山療育園がチャレンジしていることに連帯して教会も運動していきたい。

(藤田英彦)開園祭に参加して、殆どの参加者に喜びが見られた。在宅の方々も喜んで参加している。この喜びが大切だと思う。

(安藤榮二)人権意識や人間性の尊重が普遍に実践されている。

(宮崎信義)これは園が大切にしている理念や御言葉と祈り、職業倫理の定着によると思います。

(下川俊也)久山療育園の課題は教会の課題とも思われます。

(寺園喜基)「運動体としての久山療育園」を動かしているものは「ミッション」だと思ふ。この「ミッション」が合言葉ともなっている。しかし担う場としての教会の力が弱っているのではない。

(宮崎信義)平尾教会の大名クロスガーデンでの活動、「久山デー」の集いや園外活動の受け入れに多くの支援を頂いています。

(青野太潮)「障害は贖罪論に繋がる課題でもある。『障害者イエス』の認識についても議論していきたい。

ご協力ありがとうございました

(2013年7月1日〜9月30日) 敬称略

【法人会計】

一般献金

(学)西南学院高等学校母の会
安部聖子 今中富美子 今村幸文
大坪敬子 折尾バプテスト教会
甲斐悦江 活水同窓会北九州支部
河島美穂 川手康彦 木元克治
くずめよし 古賀成 後藤香織
後藤敏雄 新藤賢恵 西南学院高
等学校生徒会 西南学院高等学
校インターアクトクラブ 西南学
校中等学校図書委員会 田上洋子
田中瑞穂 手作り品売上 匿名
中尾清寿・多代子 中富美穂子
日本バプテスト連盟福岡地方連合
牧師会 野田純美 伴敦子 久山
療育園献金箱 東倉忠勝 久山療
育園保護者会一同 樋之口浩司
豊前キリスト教会 深見達弥 福
江バプテスト伝道所前田文生 福
岡地方連合牧師会 又野貴志 マ
ルヒロ青果 村津俊博 山口吉昭
山口正夫 山田有 矢山和平
(以上1,061,163円)

指定献金

福元孝三郎

(以上500,000円)

建築指定献金

安部聖子 井上清美 因敷 大原
定行 大原信幸 岡本好枝 甲斐
丈士 川野直人 木下鮮魚店うお
しげ 小山和子 佐伯年子 窄口
正一 下山由美枝 社会福祉法人
キリスト者奉仕会 副島徳恵 第
37回開園祭来園者 平京子 田隈
バプテスト教会ユニアの会 田隈
バプテスト教会 立石有梨佳 田
中ハル子 つくしんぼうの会(久
山町) 中久原区 野田靖生 羽
田有子 林俊明 久山療育園献金

箱 東久原区 堀内浩子 榎谷悦
子 牟田逸雄 姫浜バプテスト教
会 森永清治 山田雄次 横溝玲
子 吉村敏彦 通所保護者来久の
会 (以上1,507,244円)

【施設会計】

施設献金

後藤敏雄 (株)西部クリーン 安
部田鈴香 有田行彦 池田文章
上野功喜 大高勝夫 大高玄子
大塚みどり 大村希実 岡松孝洋
上久原区 川原大輔 木下康一
草場博志 久芳博文 古賀譲二
佐藤・福井・森本・藤田 澤田久
夫 三壺紗織 佐護キヌエ 下久
原行政区区長今任義則 庄林洋子
新藤賢恵・佐知子 末松克也すみ
れの会代表川崎律子 西南学院バ
プテスト教会姉妹会 高瀬寛 田
中三千男・由美 塚原千鶴子 テ
レコールNEO株式会社 中川憲
次 名雪賢一 萩本光雄 はく
ちようの会理事長森英樹 花原章
二 馬場崎喜代香 東福岡幼稚園
保護者の会 久山自立園 平尾バ
プテスト教会 平川博・成 平野
幸枝 福岡賢二・聖子 福岡県立
福岡特別支援学校 船附啓二 松
尾勇一 松岡順之介 松藤一作
安成サカエ 矢津マチ子 (有)い
まとう電器 渡辺ひさ子 (株)アン
チータ (以上463,400円)

献品

中富美穂子(さらし) 平川成(手
作りマット) 原田めぐみ(はが
き) 山下昭恵(ランチョンマッ
ト、鍋敷き) 名雪賢一(バナナマ
ロジテム九州総務部総務課(ホッ

トタオルウオーマー・すいか)
堺きよみ(タオル) 匿名(切手)
高瀬孝介(お米) 嘉久明子(ハン
カチ・カンパン・ぶどう・なし)
山口正夫(リヤカー) 手島厚子
(洋服) 瑞穂キリスト教会(タオル、
おしぼり) 大井バプテスト教会
女性会(食事エプロン)
(以上85,755円)

開園祭献品

西川美智子 愛知ヨーク(株) 小嶋
敏男 赤迫キミエ 安達美沙希
足立裕子 安部田鈴香 荒木利洋
石川電気 泉清隆 井上米屋 岩
崎大輔 岩田浩一 因キシ ヴェ
ガ(株) 上野かな 牛嶋真由美 宇
美教会 大坪敬子 大場清子 大
無田一真 大山優子 荻本光雄
奥由利子 甲斐悦江 金永真知子
鎌倉ツヤ子 河野啓子 きさく工
房 城戸知子 木元良子 空閑玲
子 草場美恵子 久保山敬子 桑
原葉月 ケアルート(株) 小池 古
池節子 古賀和男 古賀譲二 古
賀信行 後藤香織 小林るり子
鮫島経男 佐伯年子 佐伯マチ子
窄口テル子 早良キリスト教会女
性会 三山茜 塩川恭英 汐田美
香 汐田美賀 柴田淳也 志満秀
武・てい子 下条明日可 下山由
美枝 如水庵(株) 新藤賢恵 陣内
まちこ 末田初恵 西南女学院職
員有志一同 第一保険 高倉忠
義・博子 高島さつき 高瀬寛
高瀬美代子 高村利幸 瀧口祐美
武原重年 武村重紀 多田歩南
田中節子 筑紫野南キリスト教会
中尾多代子 那珂川バプテスト伝
道所 長倉哲夫 長澤涼子 中島
宣修 仲野末美 中山キメ子 縄
田素子 西田佳苗 貫梅子 野津
美恵 野中尚子 濱尾隆史 林香
代美 林龍太郎 原田太一 ひが
しふく おか幼稚園保護者会 平
子 平川成 平野幸枝 広越俊

献金申込送金先

社会福祉法人

バプテスト心身障害児(者)を守る会

〒811-2501

福岡県粕屋郡久山町大字久原 1869

久山療育園重症児者医療療育センター内

☎ (092) 976-2281 (代)

《郵便振込》郵便振替 【01720-8-24404】

《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普 71888

個人、会社共に免税の対象になります。

メール: hisayama@mpd.biglobe.ne.jp

次回にて報告する予定です。

員(街)オートジャンプ 久山療育園職

クリスマス献金のお願い

見よ、おとめが身ごもって
男の子を生む。その「名はイ
ンマヌエルと呼ばれる。」こ
の名は、「神は我々と共にお
られる」という意味である。
(マタイによる福音書第1章
23節)

神様が私たち一人一人を愛
し、その罪を担い、私たちに
使わして下さったイエス・キ
リストのご降誕を共に祝い
をしたいと思っています。

今年も皆さまのお支えに感
謝をし、クリスマスのお祝い
を行います。詳細は16ペー
ジに記載しております。ぜひと
も足をお運びください。

クリスマス献金の振込用紙
を同封させて頂いております。
皆さまのご協力をどうぞ
よろしく願います。



バプテストコロニー友の会「かべしんぶん」

第24回 久山療育園ワークキャンプを振り返って

バプテストコロニー友の会 事務局 金 丸 真

今年も夏の恒例行事、久山療育園ワークキャンプが「あなたも隣人になってみませんか？」というテーマのもと、8月19日(月)～21日(水)の2泊3日で行われました。

24回目となる今回のキャンプには、のべ100名の方々が参加してくださいました。参加者の内訳は、小学生以下が28人、中学生が9人、高校卒業から20代が7人、30代が10人、40代が17人、50代が8人、60代が11人、70代が8人、80代が2人となっており、非常に幅広い世代の方々が参加してくださいました。昨年に比べると小学生と30代の参加が増えました。運動の広がりから考えても、子どものみならず、30代の参加が増えたというのは大変強いことでした。

今年のプログラムは、例年のプログラムを大幅に(良い方向に)変更したものとなりました。特に、開会礼拝後に行われた「職種当てクイズ」は初めての試みで、久山療育園で働いておられる方々の仕事の内容を楽しく教えてもらうことができました。「病院・学校・家庭」としての久山療育園には沢山の働きがあり、その仕事の内容をキャンプに参加した子どもたちと分かち合うことで、将来、子どもたちに

何らかの働きで久山療育園を支えるようになってもらいたいと願っているプログラムでした。忙しい中、協力して下さった職員の方々に感謝いたします。

また、細かいことですが、二日目にはバーベキューの「後」にお風呂に入るプログラムになりました！今までは、お風呂に入ってからバーベキューでしたので、せっかくお風呂に入っても汗だく煙まみれになっていた！そこがようやく改善されました！これは一部ですが、ワーク作業や、入所者の方々とのおふれあいなど、いつものプログラムをさらに豊かにするために工夫を重ねています。

またプログラム中に行われた街頭募金には、30人を超える小中学生が天神大丸前に並び、猛暑の中で声を上げて、重症児者と共に生きる豊かさ大切さを訴えた結果、50,061円ものカンパをいただき、感謝して久山療育園にお渡しすることができました。

今年もたくさんの方々に協力いただき、本当にありがとうございました。このことを通して、久山療育園と教会のつながりがさらに豊かにされるように願っています。また、久山療育園の職



2013ワークキャンプ参加者



入所者さんとのふれあい

員の皆様をはじめ、入所者の皆様、保護者の皆様、参加してくださいました皆様のご協力に心から感謝いたします。また、このワークキャンプを覚えてお祈りとご支援をくださった皆様に心から感謝いたします。

「ワークキャンプTシャツ」の他に「ワークキャンプポロシャツ」も限定新発売しました！ワークキャンプグッズを着て、久山療育園の働きを覚えましょう！

バプテストコロニー友の会からのお知らせ

第16回久山療育園支援 チャリティコンサートのお知らせ (久山療育園のために 2014チャリティコンサート)

来年2月22日(土)午後2時～4時に、パイプオルガンの演奏、平和一丁目フラチーム、テレベルトグリーン等の出演者を予定して、西南学院大学チャペルにて、チャリティコンサートを行います。

入場料1000円。チケットは、久山療育園他で購入できますし、当日販売もあります。



テレベルトグリーン

バプテストコロニー友の会 年末街頭募金のお知らせ

今年も福岡市天神地区におきまして、下記日程で街頭募金を行います。
皆様のご参加をお待ち申し上げます。

12月21日(土) 13時～15時
12月22日(日) 13時～15時
12月23日(月) 13時～15時
12月25日(水) 13時～15時
12月26日(木) 13時～15時
12月27日(金) 13時～15時
12月28日(土) 13時～15時

場所 福岡市天神大丸デパート前
問い合わせ・連絡先 久山療育園 092-976-2281
※日程につきましては雨天等により急遽変更する場合がありますのでご了承ください。

支援者からの声 第七回

「久山療育園について
思うこと」

キリスト者奉仕会

大牟田恵愛園 施設長

叶 義文



私は現在、福岡県大牟田市の社会福祉法人キリスト者奉仕会に所属しています。キリスト者奉仕会では、一九八三年四月、「重度身体障害者授産施設・大牟田恵愛園」を開園し、今年、三〇周年を迎えましたが、その七年前の一九七六年の九月、久山療育園は開園されました。私たちにとっては、先輩施設であり、道しるべとしての存在でもありました。

久山療育園では、設立当時から「重症児(者)」が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置づけられることを願う。したがって久山療育園は単なる收容施設ではなく新しい福祉社会づくりの拠点である。」という、設立理念をかかげていました。また、座敷牢や隔離、親子心

中や障がい者に対する差別も露骨な時代と言ってもいいと思います。就学猶予で障がい者が義務教育さえ受けられない時代でもあり、「完全参加と平等」が国際障害者年で謳われる数年前のことでした。そういう時代の中、久山療育園は、最も障がいの重たい「重症心身障害児(者)」と共に、寄り添い、歩んできた実践、その理念のもと、多くのボランティアの方々やワークキャンプ等を受け入れ、重症児(者)との出会いの場を提供してきました。

障がいのある人たちとの出会いは、わたしたちに、いろいろなことを教えてくれます。私たちが何の疑問もなく受け入れている社会の常識や価値観が本当に正しいのかを考えさせてくれます。学校に行けなかった人、家の中からほとんど外出できなかった人、親・兄弟の結婚式・葬式でさえ出席できなかった人、タクシー等の乗車拒否、電動車いすでの入場拒否等々、今でも地域にグループホームや施設等をつくることに、怖いから、何をするかわからないという偏見により反対運動が起こったりもします。こういう直接的な、露骨な差別ばかりではありません。むしろ深刻なのは、私たちが無意識・無関心の中で作り出している世間一般の価値観が、結果的に障がいのある人たちを排除しているということだと思います。特に困らせようと思つて作つたわけでは

はない、公衆電話、階段、トイレ、段差、店舗、歩道橋等々、そういう物理的なことだけでなく、いわゆる「健常者」中心の中で作られた私たちが持っている価値観が結果的に障がい者を排除してしまうことがいかに多いことか。

障がいのある人たちと向き合い、共に生きていこうとする時、私たちは問われ、変えられていきます。言い換えれば、自分の価値観を変えていかなければ本当の意味で「共に生きる」ことができないと言つてもいいでしょう。いわゆる「健常者」だけの関係の中では気付かない、最も大切なことがその出会いの中にあるのです。

近年、福祉の現場に社会福祉法人以外の団体等の参入が進んできています。NPOはもちろん営利企業等も多く参入し始めました。このことを一概に悪いとは言いませんが、大きな流れとして、「福祉」がサービス業化され、事業を回すこと、サービスを提供することばかりが重要視されつつあるような気がしてなりません。

障がいのある人と向き合うことよりも、きちんと事業を回すこと。その人のプライベートルな部分にはあまり関わらず、決められたサービスをきちんと提供すること。サービスはマニュアル化され、人と人との真の出会いはいらないものとなり、自分自身の価値観や人生が大きくゆすぶられるような出

会いはなくなりつつあるように思います。

私たちは年に一回、久山療育園と共に、バプテストに係る社会福祉団体(障害者施設、老人施設、保育園等々)で組織している日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会主催の研修会を行っています。その中の大きなテーマとして、キリスト教社会福祉の本質について議論します。社会福祉事業に関わるキリスト者としてのアイデンティティとは何か。

①神・聖書・キリストが基本であること

②神から与えられた一人一人の命はかけがえないものであり、対等であり、平等であること

③社会の中で虐げられ、差別・抑圧されている人たち、悩み・悲しみの中で生活している人たちの生の声を聞き、そこから出発すること

最後に、これまでの久山療育園の歩みは、重症児(者)と共に歩むことはもちろんのことですが、同時に、多くの人を巻き込み、人にとって最も大切なことを問題提起し、伝えてきたのだと思います。そのことにより、人は学び、考え、変えられ、育ってきたのだと思います。

そして、これからも久山療育園が設立当初の熱き思いを胸に、社会に発信していく存在として、時代を切り開く先駆者として、歩んでいってほしいと心から願う者です。



藤田 英彦

「敵であったときでさえ、御子の死によって和解させていだいたのであれば、和解させていだいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。
ローマの信徒への手紙5:9

私たちが、信仰の道に入るのは、私たちが努力して修行し、精進潔斎して神に近付いた結果であるとパウロは言いません。また私たちが清く、正しく、美しい生活をした結果であるとも言いません。むしろ「敵であったときでさえ」と言います。パウロは、かつてイエス・キリストを信じる者たちの「家か

ら家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送った」人でした。

(使徒言行録8:3) 口語訳9:1では「主の弟子たちに対する脅迫、殺害に息をはずませ」とあります。そんなパウロが Damascus 途上で、天からの光に打倒され、「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」という声を聞き、回心します。そこでパウロは「わたしが神の子イエス・キリストを十字架の死につけたのだと気付かされ、イエス・キリストが十字架上で流された血、即ち死よって、和解させていただき、今義とされ、救われて今日あるを得ているのだ」ということを知らされます。キリスト者にとって『和解の福音』はここから始まります。

『修学旅行に行ってきました!』

小・中学部

小学部の深見重弥さん、中学部の有吉壽恵子さん、鶴田力斗さん、長倉光さんの四名と、お母さん達、渡辺医師、今磯看護師さん、瀧口看護師さんと学校職員、総勢十五名で、十月十五日に、マリンワールド海の中道とザ・ルイガンズホテルへ、修学旅行へ行きました。

台風が来ていたので、出発するまで、天気が心配でしたが、皆さんのパワーで、当日は良い天気に恵まれ、楽しむことができました。マリンワールドでは、いるかの

ショーは、時間が合わず見る事ができませんでしたが、パノラマ水槽での「いわしタイフーン」というのを見ました。いわしの大群が渦巻いている様子に、みんな思わず「ふぉー」と言う声を出しながら見てしまいました。

いろいろな魚達を見るだけでなく、白く光るトンネルやパノラマ水槽が見えるシースルーのエレベーターなど、楽しむことができました。また、蟹の水槽の前で「おいしそう」と思わず口走ったり、シースルーのエレベーターで大はしゃぎしたりと、周りで騒ぐ大人たちの様子も、皆さん達の気持ち盛り上げ、楽しさを倍増させてくれていました。

午前中、水族館で過ごした後は、潮風に当たりながら、隣の「ザ・ルイガンズ」のホテルへと移動し、昼食と休憩を取りました。ホテルでは、パーティ会場の部屋で、お

いしい食事とスタッフの方たちの手厚い「お・も・て・な・し」を受け、ちょっとした贅沢気分を味わうことができました。長倉さんと深見さんは、傍でおしゃべりしているお母さん達の声を聞いてニコニコ。有吉さんと鶴田さんは、デザートにニコニコでした。

よほど楽しかったのか、鶴田さんは、帰りのバスの中、ずっと笑顔でおしゃべりをしていました。楽しい一日ではありましたが、マリンワールドでの活動時間が短かったことが心残りです。

高等部

うらかな秋晴れの中、高等部三年生久保山信さん、野田由里子さんの二名を団長に、保護者の皆さん、森看護師さん、学校職員の総勢九名という少人数の修学旅行団は自然多い宗像ユリックスへ行ってきました。午前は、プラネタリウムを貸し切ってリラクゼーションプログラムを満喫。星座の勉強をしながらダイナミックな音楽を聴けるゆつたりできた最高のひとときでした。午後は、自由行動。信さんは図書館に行き、大好きな本を、大好きなお母さんと一緒に笑顔いっぱい声いっぴいで読んだり、授業で読むための本を借りる(4冊借りました!)体験をしました。由里子さんは周辺を散策。オシャレ帽子をかぶって、お父さんと森看護師さんと一緒に秋色に染まりつつある山々を眺め

たり、古墳広場を発見したりして、天気に負けないはじける笑顔でさわやかな秋風を全身で感じました。和室での休憩時間も、〇×クイズや歌を歌って盛り上がったバス車内でも和やかな雰囲気になっていた高三修学旅行団。帰園後のお二人からは「楽しかった☆」オーラがあふれていましたよ。

最後になりましたが、今回の小・高の修学旅行では、保護者の皆様をはじめ、渡辺医師、看護師さんたちには、大変お世話になりました。おかげで安心して旅行することができました。また、お忙しい中、職員を同行させてくださった久山療育園に感謝いたします。ありがとうございました。(福岡特別支援学校訪問教育職員一同)



高等部
秋晴れの宗像ユリックス



小・中学部
海の中にいるみたい

平成25年度 看護師募集

概 要	名 称	社会福祉法人バプテスト心身障害児(者)を守る会 重症心身障害児者施設 久山療育園重症児者医療療育センター					
	代 表 者	理事長 山田雄二	センター長 宮崎信義	看護部長 曾根崎加代子	事務部長	馬原哲治	
	所 在 地	〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原1869					
	診 療 科 目	内科、小児科、リハビリテーション科、歯科					
要 入 所 者 数	入 所 者 数	94床(うち短期入所6床)					
	職 員 数 (平成25年11月1日現在)	総数175名 ※非常勤含む ※診療部4名、看護部49名、療育指導室66名、地域療育部19名、事務部25名					
採 用 用 条 件	給 与 (平成24年度実績)	初任給	4年生大学卒:203,900円～ 3年生短大卒:198,300円～ 3年生高校卒:188,900円～	定期昇給	年1回(1月1日)		
				通勤手当	0～55,000円(月額)		
				住居手当	0～28,000円(月額)		
	賞 与	経験加算	中途入社の方は、経験加算あり(10年が限度)				
等		その他手当	調整給、職務手当、扶養手当、夜間看護手当、時間外勤務手当、特別手当、年末年始出勤手当				
	勤 務 時 間	年2回【基本4.5か月(6月20日、12月10日)】 ※夜勤回数により減額あり ※平成24年度実績					
		病棟:2交替制／早出 7:00～16:00 日勤 8:00～17:00 遅出 11:00～20:00 夜勤 15:00～9:00					
		病棟:3交替制／早出 7:00～16:00 日勤 8:00～17:00 遅出 11:00～20:00 準夜 15:30～00:30 深夜 00:00～9:00					
	※週労働時間40時間						
	※勤務によるシフト制						
	休 日	完全週休2日、クリスマス(12月25日)、年末年始(12月30日～1月3日)					
休 暇	年次有給休暇、産前産後休暇、育児休業、子の看護休暇、介護休業、特別休暇等						
等	加 入 保 険	全国健康保険協会管掌健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険					
	退 職 金	社会福祉施設退職手当共済法により支給(在籍1年以上)					
	試 用 期 間	3か月					
書 類 提 出 先	応 募 書 類	自筆履歴書(写真添付)、卒業見込証明書(既卒の方は看護師免許証の写し)					
	書 類 提 出 先 問 い 合 せ 先	○応募書類を揃えて、下記住所へ郵送して下さい。 〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原1869 社会福祉法人バプテスト心身障害児(者)を守る会 重症心身障害児者施設 久山療育園重症児者医療療育センター 看護部 ※担当:曾根崎加代子(看護部長) TEL(092)976-2281 FAX(092)976-2172					

芸術の秋？食欲の秋！？通所の秋♪

それぞれの園外活動

今年の通所の園外活動は二日（十月九日、十七日）に分け、できるだけ多くの方に参加していただきたいという思いで企画しました。目的地は大名クロスガーデン!!

九日は：台風が心配されニュースとにらめっこ！残念という思いもありましたが、安全を優先し近くの香椎浜イオンモールでお食事とお買いものを楽しみました。普段どのようにお出かけを楽しんでいるのか？など、ご家族の方とお話ししながら、さらに利用者さんを知る機会になりました。また、外出時の便利グッズや様々な工夫を見せただき、本当に勉強になりました。

十七日は：良い天気恵まれ、いざ！大名クロスガーデンへ!! 都会の中のアシスって本当にあるんですね。そこはのんびり、あったかい時間が流れているところでした。ホッとした後は、午前中はそれぞれに散策、お買いもの、リラックスタイムを楽しみました。私は、「天神ぶらぶらチーム」にご一緒させていただきました。昼食はおしゃれな洋食レストランでいただきました。

帰りのレジで、お母様が利用者さんに「今日はおごちそうさま!」と言われていました。利用者さんは何とも嬉しそうで：「誇らしそうで：「素敵だな」と優しい気持ちになりました。お母様は、私の耳元で、「外でご飯を食べるときはごちそうしてもらふ設定なのです」と：「やっぱり素敵！私も親孝行したくなりました。」

午後は、またまた素敵な贅沢な時間



きれいな音に、うっとり♪

が待っていました。九州交響楽団の埜口浩之さんによるファゴットの演奏！目を閉じて聴きたくなる曲からスウィング♪したくなる曲まで盛りだくさん。埜口さんの沢山の愛をその場に感じるみんながそれぞれにがっかりと受け止め、目がキラキラと輝いていました。演奏会後の手作りお菓子とお茶のおもてなしも最高でした。

楽しい時間はあっという間。クロスガーデンは素敵な出会いがある、夢が膨らむ都会のオアシスです。これからも、「何度も行きたい!」と思う、そんなところですよ。

最後に、通所の園外活動にご参加いただき本当にありがとうございました。そして、クロスガーデンで素敵なおもてなしをしてくださいました皆様にも感謝です。おかげさまで、それぞれの園外活動が「笑顔」での締めくくりとなりました。今後も精一杯の企画をさせていただきますのでよろしくお願いたします。

(通所 保育士 大坪悠加)

ハッピー・ハロウィン

通所のハロウィン！今年はいつもと違います。「時間をくれなきや、いたずらするぞ」と園内を練り歩きます。思い思いの手作り衣装とメイクで仮装をし、皆で一週間かけて作った大きな写真フレームとカメラを手に、園内の標的を捕まえては、フレイムの中で一緒にパシャリ。

今年のハロウィンはお菓子ではなく、みんなの大切な時間と一緒に写真撮影を頂いたので。

楽しい写真が沢山できました。「Trick or Treat」「HAPPY HALLOWEEN」

(通所 支援員 多比良)



ハッピー☆ハロウィン

チームで協力!

〜ピタリ賞を狙って〜

十月五日(火)〜十一日(月)まで、通所の活動において『秋のお楽しみ会』と題しまして、秋の味覚(さつまい芋、柿、里芋、新米、ピーマン、林檎、ミカン)を使いゲームをしました。内容はと言いますと：カゴに「?kg」の秋の味覚盛り合わせの見本のカゴと同じ重さにするために、チーム一丸となって交互に秋の味覚たちを入れていくといったものです。紅白のシユシユでチーム分け! いざ決戦の時!! 入浴等で必ずしも我が子と一緒にではない親と子のペアや学生やスタッフとのペアと様々です。次から次へとバトントッチ! 見本のカゴの重さを何度も確認し相談しあいます。みんなが眼をキラキラ、キョロキョロ：とてもイキイキして、周りで応援する側にも元気を与えてくれるものでした。「ピタリ賞」が出た時のグループ一丸となって喜ぶ姿は、何とも微笑ましく愛らしいシーンでした。最後に、病棟から参加してくださった方々、そしてお母様方ご協力ありがとうございました。とても盛り上がり、楽しい「秋の一週間」となりました。

(通所 看護師 石田)



秋のお楽しみ会

外来
療育宇
そら
宙

「新しい宇宙(そら)」

今年4月、利用していただく子ども達、お母さん、そして新しい2人の保育士も胸をドキドキさせている中、宇宙の活動が通所の活動として新しくスタートを切った。

宇宙の活動は「始まりの歌」に始まり、「お名前呼び」、「てとてとて」、「主活動」、「絵本」という基本的な流れは昨年度以前と同じ流れだ。しかし「始まりの歌」1つ取っても保育士さんによって伴奏が異なる。子どもとスタッフ、お互い慣れていない者同士、なんとなく違和感を感じ取りながら活動の時間を共有した4月。緊張し、時おりドジを踏んだ自分を笑い飛ばしながら活動を展開する3人の宇宙のスタッフと、そのことを温かく笑顔で見守って下さるお母さん達から宇宙の活動空間はできている。子ども達にとって見慣れなかったスタッフは興味の対象へと変わり馴染みのある顔になり、4月に始まったばかりの子どもたちの緊張した表情は、5月、6月と同じ空間での活動を共有し回を重ねる度に、笑顔に変わってきた。

重症心身障害を持ついるとは言え、宇宙に通って来られる子ども達はまだまだ可能性を秘めており、変化していく。宇宙のスケジュールは結構ハードだ。療育、訓練、そして今年4月より宇宙が通所の事業として通所での食事が1セットになっている。事業開始当初は、療育、訓練とがんばった子どもたちは疲れて眠ってしまっただけから

上がってくる昼食を食べられない時もあったが、少しずつではあるものの体力がついてきてご飯を食べられるようになって来ている。また子ども達が通所に行く、通所スタッフ、ボランティアさん、そして通所利用者さんとそのご家族が温かく彼らを迎えてくれる。

宇宙を通して広がる人間関係がすてきだ。なんと言っても宇宙のお母さん同士、横のつながりが強い。さらに通所事業になったおかげで、通所利用のお母さん達との縦のつながりもでき、分からないこと、不安なことを相談できる人達との交流の場にもなる。

このように、新しい宇宙は活動や訓練を行うスタッフだけでなく、もともとたくさんの人達の温かさによって支えられていて、逆に宇宙の子ども達によって環境の中で、宇宙に來ている子ども達が健康に過ごし、日々新しい一面をみんなに見せてくれることを願っている。

(言語聴覚士 城戸)



みんなの笑顔で元気になるよ

通所でがんばっています！

石堂 結乃さん



石堂結乃さん

また、イベントなど楽しいことにはできるだけ参加したくて、つい頑張ってしまうヘトヘトになることも多々ありますが、皆さんのサポートもあり楽しむことができています。

これまで沢山の人の支えられ、色々な経験をさせていただきました。そして、これからも沢山お世話になると思います。九年間続けた「ゆの展」と、新しいことへのチャレンジは、これから先も共に楽しみながら続けていきたいと思っています。

そして、ここでの出会いを大切に、親子共に成長できるように頑張りたいです。

未熟な二人ですが、よろしくお願います。

母 石堂 容子

今年の四月から通園することになって半年が経ちました。学校では、小・中・高と訪問教育で、週二回の通園に不安もありましたが、結乃は私の心配をよそに通所での生活を楽しんでいるようです。

歌や賑やかなことが大好きな結乃にとって、沢山の人の関わりがもてる通所は、とても刺激的な場所です。楽しい活動やボランティアさんの歌声に、いつもニコリ笑顔で過ごしています。



ディズニー・オンアイス

9月1日に、外出サービスを利用して、めぐみ棟、田中由美さん、新藤佐知子さん、それぞれのお母さんと、マリメッセ福岡に、ディズニーオンアスを観に行ってきました。

あいにくの雨に、少し気分もブルーな中に出発。着いてみると、たくさんの観客にびつくり。座席は、見やすい一番前の席、目の前では、ディズニーの名画、名曲に合わせて、スケートで滑ったり、ジャンプしたりとても感動できるものでした。二人とも、しっかりと見て素晴らしいスケートティングで大歓声をあげて、大喜び。最後まで集中して楽しむことが出来ました。二人とも、大満足、お母さんたちも大満足、付いて行ったスタッフも大満足な一日でした。

チケットを取るの大変かもしれませんが、みなさんお勧めですよ。

来年もいけたらいいなあって、二人の表情を見ていたら伝わってきました。

(めぐみ棟 介護福祉士 島津)



ディズニーワールドにうつとり



アイスショー

大名クロスガーデンに行ってきました！

11月8日に大名クロスガーデンに園外活動に行きました。天気にも恵まれ、利用者の方もワクワクした表情で園を出発しました。バスの中では通り過ぎる景色を楽しそうに眺める人もいれば、普段乗らないバスに少し不安になっっている人もいましたが、無事にクロスガーデンに到着！

クロスガーデンに付くと、岩田屋に昼食を買いに行く人、周辺を散策する人に分

かれ、岩田屋では北海道物産展にも行きました。昼食は海鮮井やハンバーグカレー！みんないつもより食べるスピードが早いよう



天神で買いもの

いていただきました。讃美歌を唄ったり、音楽に合わせて踊ったりと、利用者の方にも笑顔が多くみられました。最後にスタッフの皆さんと記念撮影を取り、クロスガーデンを後にしました。

天気は快晴でドライブ日和。バスの中では、ウキウキワクワク・・・。

まずは、エステサロンでマッサージです。エステサロンの店内は雰囲気良く、ソファはいいつも園で座っているのよりフカフカ！スタッフの方とお話をしながら、優しくハンドマッサージをしてもらいました。良い匂いのサラサラパウダーをつけてもらい、お肌スベスベに！！

そしてお昼ごはんは、それぞれ好きなものを食べました。お腹いっぱいになり、自由時間では、海沿いを散歩する楠田さん、お母さんと買い物をする横溝さん、因さんは、ペットショップへ行って大好きな犬を見て大興奮。



みんなで散歩



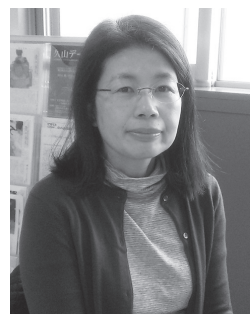
気持ちいい！！

「エステサロン女子会バスツアー」

11月1日、今回の園外活動に参加された方は、ひかり棟の楠田さん・横溝さん・因さん、行き先は、香椎浜イオンでした。

(ひかり棟 介護福祉士 村上)

「想いを 受け止めて30年」 山下久子さんヘインタビュー



相談支援専門員の
山下久子さん

今回、勤続30年を迎えられた、相談支援専門員の山下久子さんにお話を伺った。

Q:「まずは、勤続表彰おめでとうございます。30周年を迎えられて、心境はいかがですか?」

A:「ありがとうございます。率直に言って、早かったですね。久山では最初から社会福祉士として働いていたわけではないんですよ。最初の15年は療育員として勤めてきて、残り半分を相談の仕事をしてきたんですが、それぞれ勉強になり、いろんな人に出会えたことが財産ですね。」

学生時代にソーシャルワーカーになったかった時

期はあったんですが、資格を取ったのは働きながらでした。社会福祉士の資格を取ったあとにたまたまお声掛けがあつて、相談の仕事をするようになったのが、30代半ばのことでした。

Q:「そのような経緯で相談支援専門員になられたのですね。相談支援のお仕事はどのような内容なのですか?」

A:「一言で言うと、利用されている障害を持った方々の話を聴くことです。その方々の想い、望み、困っていることをよく聴いて、よりよく生きることへのお手伝いをする仕事です。それは一人ではできないことで、いろんな人とのつながりが必要になってきます。一人一人の障害も違うし、状況も環境も全て異なっています。公的なサービスも、その人が望むことに合わないことも当然にあるんですね。その中で、できる限り望みである支援を受けることができるように、福祉関係者はもちろん、時にはボランティアや地域住民・民

生委員の方々と話し合いを重ね、支援する側みなが同じ視点でサポートしていけるように日々努めています。しかし、なかなか解決が難しい問題も多くあります。緊急時に備え、曜日に関わらず24時間体制で携帯が繋がるようにしています。

Q:「それは：なかなか気が休まらない、大変なお仕事ですね。仕事をしていて、どのような瞬間に嬉しいとか、やりがいを感じますか?」

A:「それはやっぱり、利用される方の笑顔を見ることができたときですね。支援を受けた方が、さまざまな困難がある中で、それぞれの道をその人らしく進んでいく嬉しそうな笑顔を見ることができたときには、大変さも吹き飛びます。」

Q:「相談のお仕事ですので、人と接することがお仕事の主であると思いますが、どのようなスタンスで人に接しているのですか?」

A:「先ほどお話しした通り、利

用される方の想いを聴くことが第一の仕事なので、想いを教えてもらえるように信頼関係を築くことが大切です。信頼して、安心して話してもらえよう、時には何度もお会いしに行ってお話を聴いています。

「話をただ「聞く」のではなく、その方自身の想いを受け止めて「聴く」ことが大切なですね。」

A:「そうです、その方を受け止める—自分の価値観を差し挟まず、その方を取り巻く環境、状況を確認して総合的に判断し、一緒に考えていくこと。それを大切にしています。」

Q:「最後に、休日の過ごし方や、趣味などを教えて下さい。」

A:「休日は、映画を観に行ったり、旅行に行ったりしています。最近あんまり行けていないですが、映画はコメディでもなんでも観ますね。ただ、ホラー以外です。ホラーだけは苦手です。—今までに旅行に行った先はどこな所がありますか?」

旅行は海外に行くのが好きで、年に一度は行きたいで

す。今までイタリア、イギリス、オーストリア、オーストラリア、タイ、ベトナム、カナダ、アメリカ、インド、エジプト:—

「すごいですね!その中でも、一番印象に残っているのはどこか教えて下さい。オーストラリアの自然も、タイやベトナムのエネルギッシュさですが、一番はエジプトですね。古代の文化、ピラミッドの素晴らしさ、暑さもすごかったですよ。旅行の良さはたくさんありますが、一番は日常を離れてその世界だけに浸ることができるところでしょうね。」

今回お話を伺って、相談支援の業務は、想像以上に困難で、細やかな心遣いの欠かせない大変なお仕事だと知ることができました。これからも地域で暮らす障がい者の方々としっかりと支援していただけるよう、オフの時は趣味の映画と旅行をめいっぱい楽しんで、また楽しいお話を聴かせて下さい!

(総務課／広報委員 高野)

第37回開園祭報告「総合支援の実践に向けて」

センター長 宮崎 信義

久山療育園重症児者医療療育センターは、創立37周年を迎えました。これまでの主なる神様のお導きに感謝し、ご支援して下さる皆様、ボランティア、保護者、職員など多くの方々の祈りの御支援に感謝申し上げます。



第37回の開園祭のテーマは「障がい児者総合支援の実践」とさせて頂きました。今年度から施行されている「障害者総合支援法」が久山療育園の理念と合致するように実践していきたいとの願いからです。明日24日には第3回全国支援者会議が開催されます。発題は、「40年の歩みの反芻とポスト40年の展望」「久山療育園の働きと使命」「コローニ友の会運動の展開」「人材育成の課題」等です。提言を受け、改めて創立の原点に立ち返り、久山療育園が主の御心になうもので在り続けるものでありますように努め、祈って参りたいと思います。

2009年度から実施しています「在宅支援プロジェクト」は、2012年度には第一次計画の増築が達成され、現在は創立40周年を目標とする第二次基本計画「在宅支援棟とケアホーム設立」が計画され実行段階に入っています。ここを在宅支援の基地として、「在宅支援三本柱」（通園事業・短期入所事業・訪問事業・相談支援事業など）の確立に着手しています。これも神様のお導きと支援してくださる多くの方々のご支援の賜物であります。「障害者総合支援」を実践するセンターとして、施設・保護者会・コローニ友の会の働きの拠点としても用いられれば幸いです。



在宅支援プロジェクト委員会および設立準備室からのお知らせ

現在、久山療育園では在宅重症児者およびその保護者の方々への支援を目的とした、新たな施設「在宅支援棟及び共同生活介護棟（ケアホームひさやま）」の建築に向けて、福岡県、久山町、バプテストコローニ友の会、保護者、その他多くの関係者のご協力を得ながら建築計画を進めております。新たな施設の購入予定土地面積は2198㎡、敷地内面積は1842㎡となる予定で、総工費は約5億が見込まれています。久山療育園では、在宅支援建築献金目標を2013年～2015年度にかけて毎年1,000万円として、第37回開園祭開催日である2013年9月23日より、新たな募金を開始することと致しました。

詳しくは9月中旬完成予定の専用チラシに記載の予定ですが、ご支援下さる方々、関係者の皆様へ広くご協力を呼びかけさせていただきます。尚、参考までに新たな募金の振込口座の案内を下記致しますのでご参照下さい。

(名 義)	在宅支援プロジェクト「ケアホームひさやま」募金
(金 融 機 関)	西日本シティ銀行 久山支店
	店番739 □座番号3002812
(問い合わせ先)	久山療育園事務部 Tel.092-976-2281

開園祭表彰者の声

療育課長

山田 いずみ

永年勤続20年の表彰をしていた
だきありがとうございました。

入職してもう20年経ったこと
を、自分自身が一番驚いています。
保育士として利用者の方々とい
緒に過ごした20年間、楽しかった
事や辛かった事いろいろありまし
たが、今振り返ると思い出深い時
間だったと感じます。

入職当初は戸惑うことも多く、
時々自信がなくなることもありま
したが、利用者の方々の笑顔に癒
されパワーをもらい、頑張って乗
り越えることが出来たと思いま
す。

昔の写真を見ると、利用者や保
護者の方々や私を含めた職員は若
く、古い園舎で過ごした日々を思
い出しました。今回20年を振り返
るにあたり、いろいろな事が変
わったと感じています。福祉制度
の変化もあり、今は利用者個々の
ニーズに対するサービスを提供す
ることが多くなってきました。こ
れからもその利用者個々の思いを
汲み取り、より楽しい生活がおく
れるようにしていきたいと思っ
ています。そして、これからの久山
を支えていく若い職員に、少しで
も何かを残すことが出来れば良
いと思っています。

20年経った今ただ一つ変わらな
いことは、利用者の方々の笑顔と、
その笑顔に癒され頑張るパワーを
もらう私自身の思いです。

地域療育部 相談支援専門員

佐藤 弘章

「久山療育園勤続5年」と言わ
れても、実感がないのが正直なと
ころです。他県より転居して初め
ての職場が久山療育園でした。
入所されている方々の支援を通
して多くの事(非言語的コミュニ
ケーションの中から、ご本人の想
いをくみ取り支援していく事の難
しさ等)を学び、時には笑顔に癒
され、元気をもらっていました。

一方でテンボが速く、何を言っ
ているのか分からない(博多弁)言
葉を話す職員とのやり取りに苦
労した(理解できない時は笑ってご
まかしていました)事を思い出
します。

現在は、地域で暮らす当事者の
方々の相談業務を経験させても
らっています。常にご本人の想
いをくみ取り・寄り添い支援して
いく事を意識して取り組んでおり
ます。1年・2年先の事は分かりま
せんが、今自分の出来る事を精一
杯頑張っていけたらと思います。

設備管理主任

小脇 勇

「大型免許を持っているから!」
という一言で久山療育園へ呼ば

れ、15年が経ってしまいました。
当時、ボランティアさんの送迎を
するのに大型免許を持っている人
が必要と言うことで白羽の矢が
立った私、設備管理の仕事を中心
にボランティアさんの送迎から通
所利用者の送迎へ変わり、現在は
会計・設備管理の事務職に専念し
ております。

事務職は、入所者や通所利用者
に直接関わることはありません
が、常に重症児者の生活の豊かさ
を願って、自分出来る事を一生
懸命頑張っています。聖書の中に、
イエス・キリストが上着を脱ぎ、
弟子たちの足を洗って手ぬぐいで
ふいた。という話があります。教
師であるキリストが当時奴隷の仕
事であった足を洗ってふくという
行為を、キリスト自身が身をもつ
て示された出来事が私の久山療育
園での仕事の土台となっていま
す。

重症児者の生活が豊かになるこ
と。それは、そこに関わる職員が
豊かになることだと私は思いま
す。私のこれからの目標は、裏方
として重症児者に関わる職員が、
看護や療育に専念できる環境作り
をお手伝い出来ればと思っています。

第37回
開園祭 表彰者

ボランティア表彰者

3000時間 子彦様
2000時間 節満様
1000時間 古池上尾尾スエ早喜大輔子彦様
500時間 古村萩萩戸江岩福沖村由邦彦子彦子陽子昭一美美章き貴美治み
古池上尾尾スエ早喜大輔子彦様

職員永年勤続表彰者(敬称略)

35年 土生山下安山小島知吹桐佐中原森國崎
30年 中山安山小島知吹桐佐中原森國崎
25年 中山安山小島知吹桐佐中原森國崎
20年 中山安山小島知吹桐佐中原森國崎
15年 中山安山小島知吹桐佐中原森國崎
10年 中山安山小島知吹桐佐中原森國崎
5年 中山安山小島知吹桐佐中原森國崎

メモ帳

【7月】

▽3日 和白リハビリテ
ション専門学校OT見学(30
名)、玄関前・通所エレベ
ーター修理、福岡特別支援学校
通所見学(3名) ▽4日
タ行事 ▽6日 ボランティ
ア講習会(9名) ▽7日 中
久原祇園祭来園 ▽9日 通
所夏祭り、安全運転管理者講
習会(サンレイク粕屋) ▽14
日 東久原区夏祭りみこし来
園 ▽17日 福岡県職員研修
所より見学(1名) ▽19日
福岡特別支援学校一学期終業
式(2名)、西南高校より見学
ボランティア(30名) ▽24
日 ロジテム九州(株)より見学
(5名) ▽25日 福岡県病院
協会専門学校実習(5名) ▽
27日 入所夏祭り(ボランティ
ア45名、保護者51家族参加)

【8月】

▽1日 福岡特別支援学校出
校日 ▽篠栗町介護支援セン
ターこころ職員研修(27名)
▽5日 第30回バ福協職員研
修会(47名) ▽8/6 ▽8
日 エレベーター法定点検
8/9 ▽13日 東久原盆踊
り(7名参加) ▽19日 コ
ロニー友の会ワークキャンプ
(91名) ▽8/21 ▽22日 前
橋教会附属太田伝道所より見

学(1名) ▽23日 日本バプ
テスト連盟全国壮年大会(西
南学院)、認定看護師研修会
▽25日 西南学院大学児童教
育学科実習(3名) ▽9/4、
精華女子短期大学保育福祉専
攻科実習(3名) ▽9/6
▽26日 福岡県私設病院協会
専門学校実習(3名) ▽9/

3 ▽29日 夜間避難訓練
【9月】
▽2日 福岡特別支援学校始
業式 ▽3日 社会福祉施設
指導監査 ▽5日 福岡女学
院看護大学一日実習(17名)
▽9日 福岡地方バプテスト
連合牧師会(37名)、西南学院
教会ボランティア来園、福岡
和白リハビリテーション学院
地域作業療法実習(1名) ▽
9/13 ▽10日 西南学院中
学母の会ボランティア来園
▽12日 福岡病院重症心身障
害病棟開棟記念式典及び内覧
会出席 ▽15日 開園祭保護
者作業日、在宅支援プロジェ
クトより入所保護者に向けて
の説明会 ▽19日 舞鶴幼稚
園母の会ボランティア(25名)

▽25日 ひかり棟避難・消
火訓練 ▽26日 重症心身障
害学会(宇都宮市) ▽30日
西南学院大学人間科学部社会
福祉学科実習(2名) ▽11/
1、福岡県私設病院協会専門
学校実習 ▽10/8

ボランティアだより

ボランティア紹介・中富美穂子さん



中富美穂子さん

今回は水曜日にいらして頂いている中富美穂子さんをご紹介します。中富さんは昨年の九月から来園されるようになりました。三八年間という長い間お勤めされていたところを退職された後、何か社会とのつながりを持ちたい、人と関わるのがしたいとボランティアを思い立たれたそうで、以前に見学をされて印象に残っていた久山療育園のことが思い出されて電話して頂いたのがきっかけです。

最初は、家の用事や体力的なことも考慮して、隔週の来園でしたが、始めてみると、古池さんをはじめボランティア室の皆さんの雰囲気は温かく、とても楽しい！ということと毎週来られるようになりました。ボランティアさん同士のやりとりはもちろん、入園者の方とスタッフの関わりをみられることも楽しめと話されます。今年度から、ひかり棟の又野さんがボランティア室でのたみもの作業と一緒にするようになったのですが、回数を重ねる毎に又野さんの作業がうまくなっていくこと、スタッフとの信頼関係がわかること、その場でそれを見て共有できることが嬉しく楽しいと教えてくださいました。

活躍はボランティア室内にとどまらず、今年からめぐみ棟での入浴後のドライヤーかけをして頂いています。先輩ボランティアの野田さんが本当に楽しそうに病棟へ行かれるのを見て、チャレンジしてみようと始められました。最初は、驚きや戸惑いがあったそうですが現在は、一人一人の個性がわかってくる、話しかけられずにはいられないほど親しみを感ずるようになりました。入浴後の皆さんの表情がとても気持ちよさそうで、それを見るのがとても楽しく、最近では声掛けに入園者の笑顔が返ってくるようになったと喜ばれています。

中富さんには今年七月のボランティア講習会で体験談を話して頂いたのですが、その際、人間同士のやりとりということが喜びを大きくしてくれている、自分のために始めたボランティアだが、最近では役にたててきたかな、という喜びがでてきたと充実を話してくださいました。

今後の抱負を伺うと、「この楽しみが少しでも長く続けられるように頑張りたい」、「紙芝居など、活動を広げていけたら」と話してくださいました。是非お願いしたいと思います。

ご無理を言ってお願ひした今回のインタビューでしたが、いつもの中富さんそのままに快活に話して頂きました。ご協力有難うございました。今後ともよろしくお願い致します。

(相談支援員 山田)



歩行器



9月23日から24日にかけては、第37回開園祭及び第3回全国支援者会議が開催されました。開園祭の式典・展示・交流・バザーには、集まられた方々とお迎えする利用者や職員との交わりの中で生まれる多くの笑顔がありました。

時間をかけてそれぞれの持ち場で開催準備を重ね、多くの献金・献品を含むご支援やボランティアの皆さんの手助けを頂きながら、その日一日、入所・通所の利用者の皆さんとご家族を園の中心に据えて、楽しく過ごそうという熱意があり、また、「共に生きる」という私たちの使命を、準備と実施の汗を交えて関係するすべての皆さまと確認し合う喜びがありました。

翌日開催された支援者会議では、福祉の形や園の在り方について、この40年間の変化や現在の課題が出席委員へ伝えられると共に、今後の取り組みとしての在宅重症児者とそのご家族への支援プロジェクトへ多くの意見とご共感をお示し頂きました。

私たちが働きとして取り組むべき課題が、神様が集めて下さった多くの来場者と支援者によって明らかにされた二日間であった、そんな風に感じています。

ご来場・ご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。

(M・T)

○入所利用者のクリスマス

12月10日(火)

10...00より

メッセーじ 山田雄次理事長

○久山療育園クリスマス会

12月12日(木)

13...30~14...30

メッセーじ 安藤榮雄牧師

(城西キリスト教会名誉牧師・法人評議員)

○通所クリスマス

12月13日(金)

10...30

メッセーじ 山田雄次理事長

職員の異動

(8/1~10/31)

【退職】

▽花田京子(看護師) 10/4付

▽峰松敏也(看護師) 1/21付

【採用】

▽西田佳苗(介護福祉士/療育員より職制変更) 9/18付

▽羽野美濃(看護師) 10/28付

